

平成27年度

新見市小中一貫教育検討委員会報告書

—夢や希望に向かってたくましく歩む子どもを育てるための提言—



平成27年12月

新見市小中一貫教育検討委員会

新見市小中一貫教育検討委員会報告書

—夢や希望に向かってたくましく歩む子どもを育成するための提言—

はじめに

昨今、子どもを取り巻く社会情勢や教育環境の大きな変化により、児童生徒の学力向上が求められるとともに、暴力行為やいじめ、不登校などの生徒指導上の諸問題の解決がクローズアップされてきました。学校現場では、それらの課題を解決するための様々な法律や規則が定められたり、国・県や市町で多くの取り組みが行われたりしているところですが、

新見市においても、教育に対する多くの取り組みが行われる中で、中学校での不登校生徒数の増加、いわゆる「中1ギャップ」の解消は教育課題の1つでした。小学校6年間の教育課程を修了した子どもたちが、次の学びの場である中学校に入学するとき、生活環境や生活時間の変化、人間関係の変化などへの対応をスムーズに行い、小学校での学習内容や生活経験の上に新しい学びを積み重ねていくためには、小中一貫教育の取り組みが有効ではないかと考え、平成24年12月より小中一貫教育実施について新見市教育検討委員会及び同作業部会での協議が始められました。

平成25年度には、新見南中学校区をモデル校区にし、実施に向けての試行と調査が始まりました。また、その後検討と実践を重ねて、小学校6年生の「中学校1日体験」や、中学校の教員が小学校で授業を行う「出前授業」、小中学校の教員が同じテーマで連携して行う研修、「家庭学習・家庭生活のきまり」の共同作成など、多くの成果をあげてきました。

その成果をふまえて、今年度新見市小中一貫教育検討委員会とワーキンググループでさらに一歩進んだ小中一貫教育のあり方を検討して参りました。この度その検討結果について、本報告書としてまとめました。

提言内容には、来年度から即実行可能な取り組みの他、将来的にめざしていく内容も含まれていますが、今回の検討を契機として新見南中学校区の教職員、保護者、地域の方が9年間を通してめざす子ども像を共有し、連携した取り組みが行われることで地域に根ざしたたくましい子どもの育成につながることを期待しております。

平成27年12月10日

新見市小中一貫教育検討委員会

I 提言

【全体構想】

1 中学校区全体で9年間を通してめざしたい子ども像を共有し、一貫した取り組みを行うことで夢や希望に向かってたくましく歩む子どもを育成する

(1) 小中一貫グランドデザインの設定

(2) 小中一貫教育の目標に基づく学校目標



【教育課程】

2 学びの一貫性を重視した指導のあり方やとカリキュラムの作成に取り組むことにより、9年間で学び方を身に付け、自ら学ぶ意欲をもった子どもを育成する

(1) ICT教育を通して、段階的に学び方を身に付ける

(2) 中期（小学校5、6年生～中学校1年生）のつながりを見通した英語カリキュラムの作成

(3) 小中学校相互の計画的な交流学习



【PTAの連携】

3 中学校区全体で子どもを支援し育成していく組織作りや取り組みを行い、地域に根ざし、地域で活躍する子どもを育てる

(1) 新見南中学校区合同PTA組織やコミュニティ・スクール

(2) PTA交流事業



【児童生徒の交流】

4 児童生徒の交流事業や小学校6年生の合同活動を通して、より良い人間関係づくりのためのコミュニケーション力の育成や、中学校への不安の解消を図る

(1) 新見南中学校区小学校での合同行事

(2) 小学校6年生の中学校での体験活動（授業、部活動、交流活動）

【評価について】

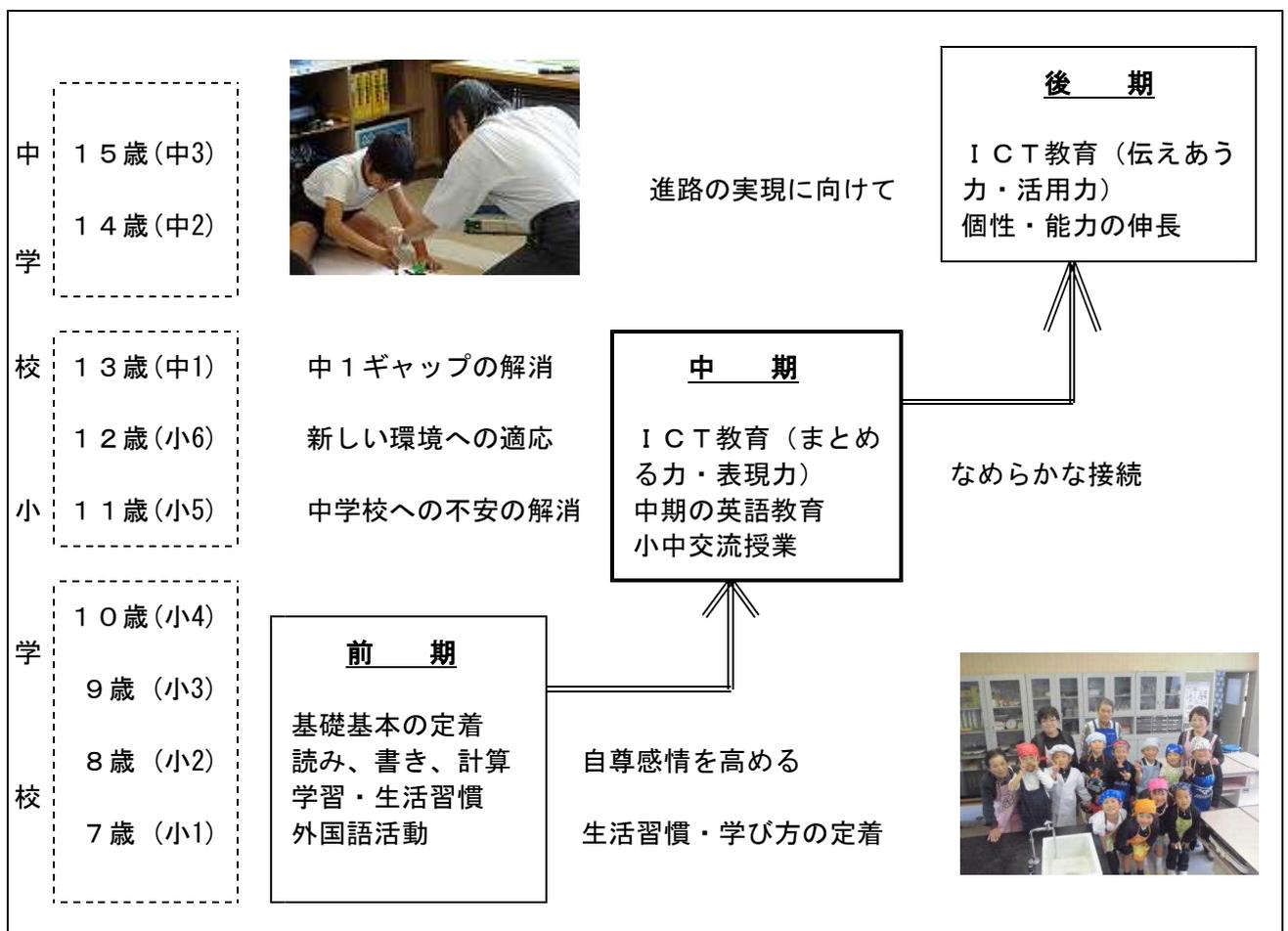
5 実施後中間期（半年後）と1年後毎に、学校評価や学力調査、アンケート等をもとに各学校において成果の検証を行う

II 提言のねらい

1 「中学校区全体で9年間を通してめざしたい子ども像を共有」について

今回の小中一貫教育の提言にあたり、まず大切にしたいことは、義務教育9年間の一貫性の共有です。小学校6年間から中学校3年間への移行は、学習内容や形態、時程が大きく変わるばかりではなく、複数の小学校から1つの中学校に進むことから、人間関係づくりの面で悩みをもつ子どもたちがいました。そこで、まず9年間を見通した一貫性について次のように考えました。

○ 小中一貫教育全体構想図



また次に、中学校区での一貫性を学校教育全体に反映させるため、グランドデザインについては次のように考えました。

○ 新見市小中一貫教育グランドデザイン 新見南中学校区をモデルとして

1 新見市小中一貫教育のねらい

小中一貫教育により、義務教育9年間を見通し、一体感や連続性を重視した教育を行うことで、児童

生徒に「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育む

2 新見市小中一貫教育でめざす子ども像

「郷土を愛し、夢や希望に向かって未来を拓いていこうとする子ども」

3 新見南中学校区小中一貫教育目標（案）

「小中一貫教育で育む、夢や希望に向かってたくましく歩む新見南中学校区の子ども」

4 小中一貫教育基本方針

（１）学習の連携

◎英語科を中心に、９年間を見通した一貫性のある指導に努め、学習規律や学習習慣の定着を図る。

◎小中学校の教員が連携して指導方法の改善やタブレット端末を活用したＩＣＴ教育の推進に取り組むことにより、自分の考えをまとめ、それを深めて表現することのできる確かな学力を身に付けさせる。

◎小中学校の教員の相互乗り入れ授業により、きめ細かな指導や専門的な指導を行うことで、学ぶ楽しさや自己教育力を保障する。

（２）ＰＴＡの連携

◎合同のＰＴＡ組織を発足させ、中学校区での共通認識や共通実践に取り組むことで、９年間を通じた円滑なＰＴＡ活動を行う。

◎各校がコミュニティ・スクールの組織を取り入れ、地域との教育支援体制をより強固にし、中学校区で共通した課題に取り組んだり、小中の枠を超えた行事や活動へ相互参加したりする。

◎地域や保護者の方と、児童生徒のふれあいが増えることにより、地域の良さを再発見し、郷土を愛し将来新見市に住みたいという子どもを育成する。

（３）児童生徒の交流

◎小中一貫教育で一体感を醸成し、中学校進学への不安の解消を図り、中１ギャップの解消を図る。

◎小学生と中学生の好ましい人間関係を築き、自尊感情や規範意識を高揚し、思いやりの気持ちと夢や希望をもった子どもを育てる。

◎９年間を見通し、望ましい学習習慣や生活習慣を身に付けさせるために、共通実践や継続した取り組みを行う。

2 「学びの一貫性を重視した指導のあり方やとカリキュラムの作成」について

教育課程では、現在新見市で行っている重点的な取り組みを活かして、ＩＣＴ教育の面での学び方教育、英語指導の一貫性、交流授業についての取り組みを提言します。

○ICT教育の推進

- ・新見南中学校で行っているタブレット端末を利用したICT教育へのつながりとして、各小学校にタブレット端末を導入し、自分の考えを表現する（初期）、自分の考えを伝える（中期）、考えを伝えあい高めていく（後期）という学び方を育てる。
- ・分離型の学校においても、授業の映像を送信することで、同時に同じ授業を受け、話し合いを行う一環授業に取り組む。

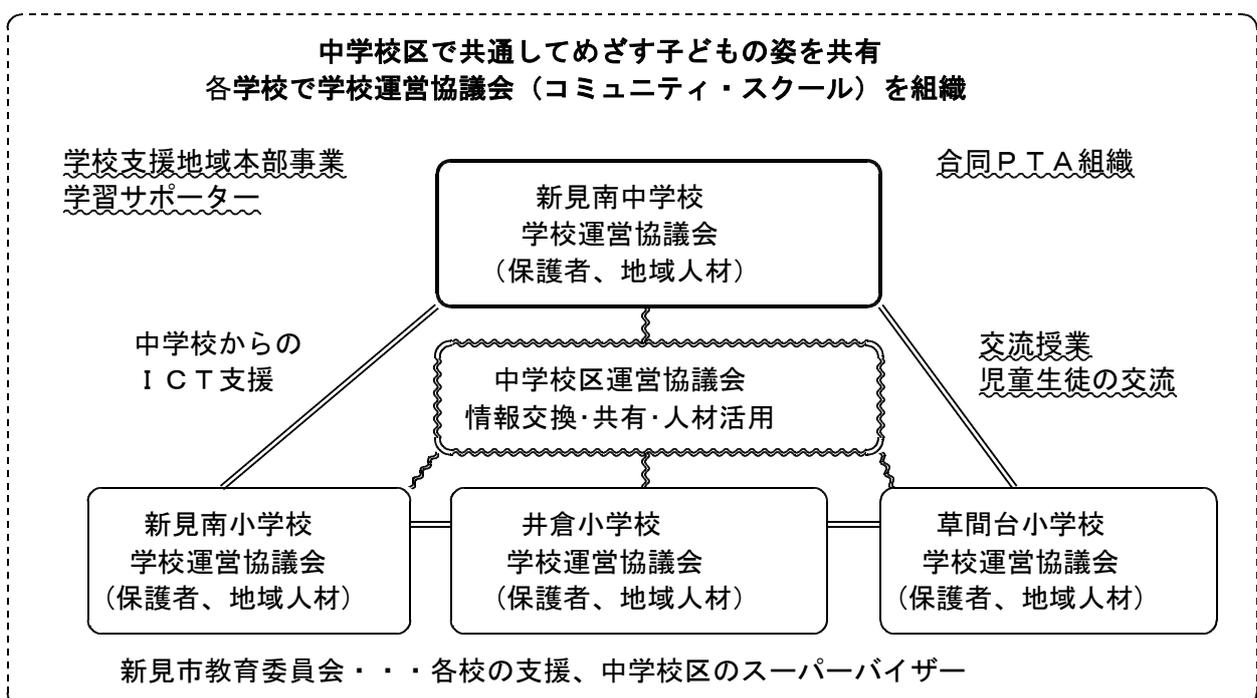
○英語科を中心とした小中一貫カリキュラムの作成

- ・これまで新見市で取り組んできたALTの配置や英語特区、教育課程特例区の小中一貫教育の取り組みを活かし、小学校5、6年生から中学校1年生の接続を中心とした、カリキュラムを作成する。
- ・中学校の英語科教員が各小学校で授業をしたり、映像の送信で全小学校での一斉授業を可能にし、今後の英語の教科化に向けて英語の学力を高める。

3 「中学校区全体で子どもを支援し育成していく組織作りや取り組み」について

子どもを取り巻く中学校区の組織づくりの面では、まず異なる小学校であっても、しっかりと保護者同士が共通の思いのもとにつながっていることが大切であると考えます。さらに、各学校ではそれぞれの地域の力を借りながら地域ともつながっており、それが中学校区で1つになったときに、中学校区内でのより良い連携が可能になってくるものと考えます。今後新見市全体でもモデルとして広がっていくことを期待しています。

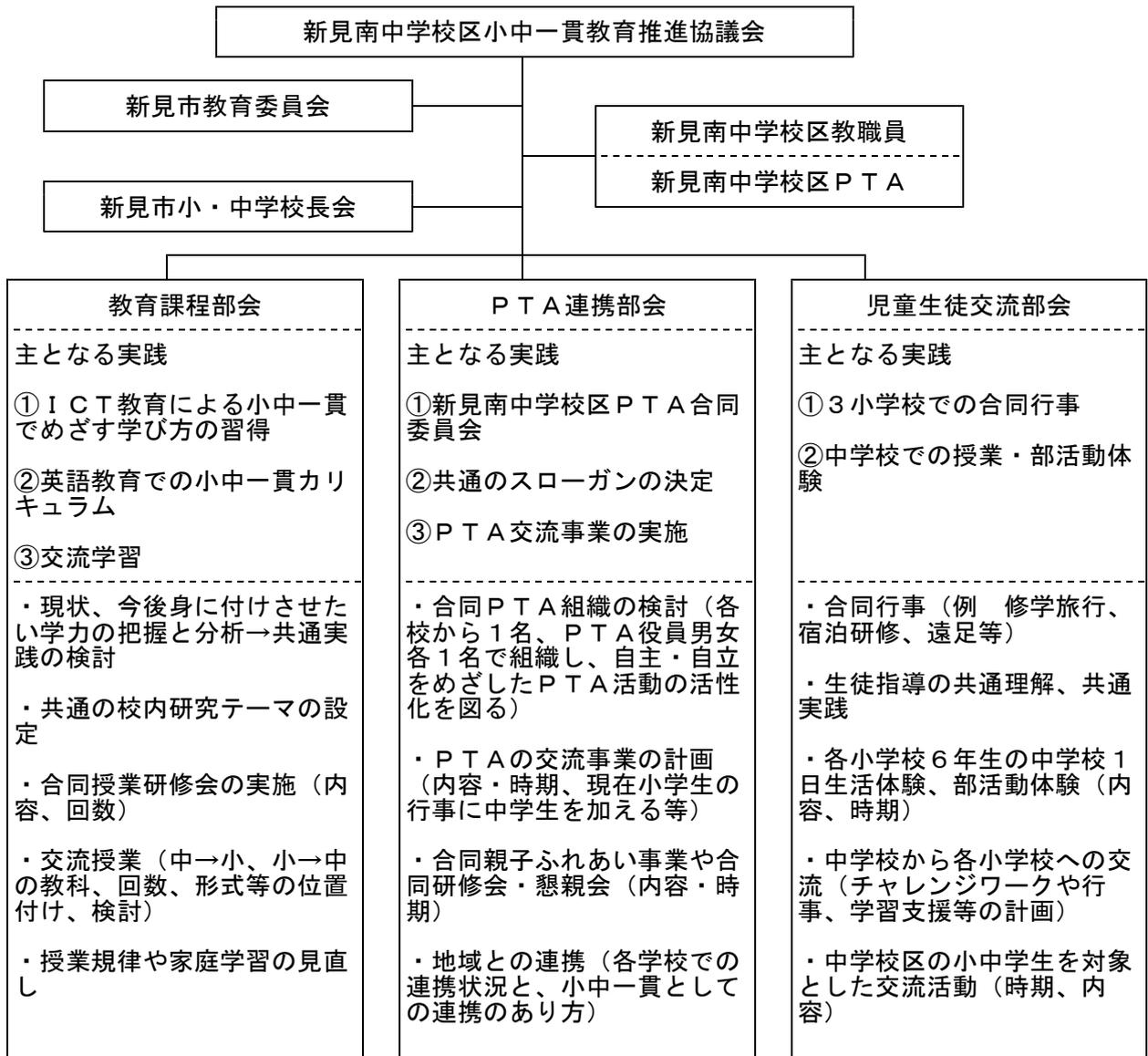
○新見南中学校区の学園組織構想



4 「児童生徒の交流事業や小学校6年生の合同活動」について

児童生徒の交流では、中学校への不安の解消の面から授業や部活動の体験活動の充実や、小学校段階での合同学校行事等の取り組みが重要になってくるものと考えます。また、交流事業を通して、小学校と中学校、また小学校同士の違いが明らかになることで、円滑に中学校へ進むためには何を身に付けておくべきかという共通理解が進むものと考えます。

○ 小中一貫教育実施のための推進組織



5 「実施後中間期（半年後）と1年後毎に、学校評価や学力調査、アンケート等をもとに各学校において成果の検証を行う」について

実施後の成果については、検証を行い成果を共有しながら次の取り組みを進めます。コミュニティ・スクールにおいても検証を行い、地域で支える学校づくりを推進します。

Ⅲ これまでの検討の経緯

平成22年 5月 1日	「新見市小中一貫教育検討委員会及び作業部会設置要綱」を定め、小中一貫教育についての検討を行う方針を決定
平成24年12月19日	第1回新見市小中一貫教育検討委員会作業部会開催 ・ 検討実施の計画立案
平成25年 1月11日	第2回新見市小中一貫教育検討委員会作業部会開催 ・ 先進校、先進地域の取組の概況の確認
平成25年 1月15日	第1回新見市小中一貫教育検討委員会開催 ・ モデル校の決定 — 新見南中学校
平成25年 3月18日	第2回新見市小中一貫教育検討委員会開催 ・ モデル校の現状と取組の方針の確認
平成25年 4月 1日	モデル校の取組の開始
平成25年12月16日	第3回新見市小中一貫教育検討委員会作業部会開催
平成26年 3月18日	第3回新見市小中一貫教育検討委員会開催 ・ 小中一貫にかかる工程の確認
平成26年 8月 7日	第4回新見市小中一貫教育検討委員会作業部会開催
平成26年 8月28日	第4回新見市小中一貫教育検討委員会開催 ・ 「連携」プランの検討
平成26年11月25日	第5回新見市小中一貫教育検討委員会開催 ・ 提言書の提出
平成27年 5月13日	平成27年度第1回新見市小中一貫教育検討委員会
平成27年 6月 9日	平成27年度第1回新見市小中一貫教育ワーキンググループ
平成27年 8月27日	平成27年度第2回新見市小中一貫教育ワーキンググループ
平成27年10月14日	平成27年度第3回新見市小中一貫教育ワーキンググループ ・ ワーキンググループでの「まとめ」の作成
平成27年11月27日	平成27年度第2回新見市小中一貫教育検討委員会 ・ 新見南小、新見南中の視察 ・ 報告書の検討

IV

新見市小中一貫教育検討委員会委員名簿

番号	所属・職名	氏名
1	委員長 新見市中学校長会会長（新見市立哲西中学校長）	砂田晃洋
2	副委員長 広島県呉市立警固屋中学校 校長	坂口守
3	岡山中学校・岡山高等学校 校長	鷹家秀史
4	学校法人おかやま希望学園 吉備高原のびのび小学校 校長	日名育子
5	元 岡山県立新見高等学校長	松井健一
6	にしみ日本一安心安全まちづくり実行委員会 会長	橋本正純
7	新見市立新見南小学校PTA副会長	富谷晴美
8	新見市立新見南中学校PTA副会長	村上明美
9	新見市小学校長会 会長（新見市立正田小学校長）	小川亨

新見市小中一貫教育検討ワーキンググループ名簿

番号	所属・職名	氏名
1	委員長 新見市立新見南小学校 校長	福田秀之
2	副委員長 新見市立新見南中学校 校長	川上均
3	新見市立新見南小学校 教諭	杉和子
4	新見市立正田小学校 教諭	小川典子
5	新見市立井倉小学校 教諭	渡辺明子
6	新見市立草間台小学校 教諭	金森誠
7	新見市立新見南中学校 教諭	小林佳夫
8	新見市立新見南小学校 PTA会長	岡本健吾
9	新見市立正田小学校 PTA会長	森本正誌
10	新見市立井倉小学校 PTA会長	富谷まゆみ
11	新見市立草間台小学校 PTA会長	國中淳史
12	新見市立新見南中学校 PTA会長	安達秀雄